



## 環境問題への対応は 社会問題解決のカギ

コロナ下でも、地球温暖化は止まらな  
い。脱炭素の必要性、産業界への影響  
コロナ経済からの回復を目指す際に再生  
可能エネルギーに投資する「グリーンリ  
カバリー」など、大注目のテーマを網羅  
的に解説。いじめ、縦割り社会など数多  
くの社会問題の番組を制作した著者なら  
では、日本社会と環境問題を結びつけ  
ての提言が光る。国、企業、個人それぞ  
れのアクターが気候変動のリスクをチャ  
ンスに変えるための可能性を探る。

### 脱炭素革命への挑戦

世界の潮流と日本の課題  
堅達京子 / NHK取材班・著  
山と溪谷社 / 1760円



## ブロック化する世界 西太平洋連合を提唱

米・中・ロ・EU・アフリカ連合(AU)  
……再びブロック化が進む世界の中で、  
アジアの国々はいかに連携して存在感を  
発揮すべきか。かつての「東アジア共同  
体」構想は、歴史認識や域内協力の問題  
を前に頓挫した。本書は、日本と東南ア  
ジアを中心とした各国の外交戦略を、地  
域研究と国際関係論の両面から分析し、  
「柔らかな民主主義の連合体」としての西  
太平洋連合を提唱する。秩序形成の道程  
に新たな選択肢を示す一冊。

### 西太平洋連合のすすめ

日本の「新しい地政学」  
北岡伸一・編  
東洋経済新報社 / 2860円

## メルケル時代の足跡と 「メルケル後」 への不安



### アンゲラ・メルケル

東ドイツの物理学者がヨーロッパの母になるまで  
マリオン・ヴァン・ランテルゲム・著 / 清水珠代・訳  
東京書籍 / 1980円

「アンゲラ・メルケルがいなくなれば寂し  
くなるだろう」——ドイツ女性宰相の一六  
年間を追いかけた著者は、世界の「支  
え」が去ることに不安を覚える。ドイツ、  
ヨーロッパ、世界での彼女の存在感を考え  
れば、著者と同じ感覚を抱く人は多いかも  
しれない。本書では、メルケルの労をいと  
わない人柄や透明性ある政治手法に、称賛  
の言葉が次々に並ぶ。他の論者による「メ  
ルケル論」と読み比べるのも一興だろう。



**中国料理の世界史**  
 美食のナショナリズムをこえて  
 岩間一弘・著  
 慶應義塾大学出版会 / 2750円

## 天津飯は日本発祥 中国料理翻案の歴史

世界中で愛される中国料理。中国系移民の広げた食文化という域を超えて、今や中華人民共和国の「ソフトパワー」の源にもなっている。だが本書が描くのは、そんな中国ナショナリズムの成功物語だけではない。膨大な資料に裏付けられた豊富なエピソードによって俗説を退けながら、アジア・米欧各国で現地化し、ホストカントリーの国民食にまで「翻案」されていく軌跡、そして世界史の中の近代日本をも浮き彫りにする。

自治体で国際業務に携わる著者が、業務遂行に必要な知識を一冊にまとめたもの。異文化の相手と国際的な業務を成り立たせるためには、プロトコールに則った業務が前提条件となる。その全体像に加え、メールの書き方から国際会議の開催まで、国際業務の具体的で効果的な手順をマニュアル化したものが本書である。自治体のみならず、行政を巻き込む国際業務を行う企業にも有用な情報が満載されており、実践的なノウハウ本といえる。

## これ一冊でよくわかる 自治体の国際業務マニュアル

丹羽恵玲奈 / 小松俊也・著  
 イマジン出版 / 2970円



## 企業にも有用な自治体 国際業務の実践的入門

世界金融危機、ブレイグジット、トランプ大統領就任、米中対立……。ビッグ・ニュースの最前線にいた著者は、自分が「破壊の現場」に居合わせたと述懐する。さらに新聞業界の衰退が加速するなか、FTはオンラインのコンテンツから紙媒体を製作する「デジタル・ファースト」を推進し、いち早くデジタル変革を遂げた。日本経済新聞社によるFT買収時に著者が感じた戸惑いなど、日本に関する記述を拾っただけでも面白い。

## 新聞のデジタル変革と 「激動の一五年」の記録

**権力者と愚か者**  
 FT編集長が見た激動の15年  
 ライオネル・バーバー・著  
 高遠裕子・訳  
 日本経済新聞出版 / 4400円

